

第十一章 防衛態勢の整備

一 大本営の指導

昭和十七年六月初期攻略作戦の一段落を見たので同年三月大本営、政府連絡会議に於て決定した今後採るべき戦争指導の大綱中の「既得の戦果を拡充して長期必勝の攻戦態勢を整えつゝ、機を見て積極的の方策を講ずる」の方針に基き、自給必勝の戦略態勢を確立することゝなつた。その主要なる措置は軍容の刷新及び南方軍防衛態勢確立の爲の任務の更改であつた。

軍容の刷新

開戦前に強く考慮されたことは、南方要域攻略の途中に於て、北方ソ連の攻勢を受けないかといふことであつた。然るに今や北方には格

別の不安なくして初期攻略作戦を終了し得たが、息咳きつて斬り込んだ切先が雨に向いているので我が威勢を益へて八方睨みの正眼の構をとらうというのが即ち軍容刷新である。

軍容刷新の具体的内容としては用方攻略諸軍をして防衛態勢をとらしめ、節約し得る兵力を滿洲又は中国方面に転用してその防衛を強化し又内地に於ては部隊の改編、復員等の処置によつて兵備上の弾薬力を蓄えようというのである。この措置は六月以降作戦地の状況により逐次實現せられることゝなつた。

之より先六月六日陸軍大臣、參謀總長は軍容刷新に関する連署上奏を行いその際參謀總長は左の如く説明申し上げた。

只今陸軍大臣と共に連署上奏致しましたる昭和十七年陸軍軍容刷新

に關する件に悉く全軍の兵力運用に就きましては目下統帥部に於て次の様に致し度と考へて居ります。即ち兩方々面に於きましては兩方要域の安定確保及外郭要地に対する作戰準備の爲所要の兵力を配置する外爾余の部隊は主力を内地の一部を滿洲、支那に復員又は転用し支那に於きましては各處の手段を尽して對敵壓迫を依然繼續し北方に關しましては從來通り極力戰爭の発生を防止する大方針の下萬一の場合に処し得る必要なる態勢を整ふること肝要と存じます。次いで參謀總長が申し上げた草容刷新の内容の骨子は左の如くであつた。

#### 一、兩方方面

指揮統帥機關を改編し占領地軍政施行の体系を整備する。

抽出可能予想兵力としては近衛、才二、才四、才五師団等を内地に帰還せしめ、才三十三師団等は支那へ、才十六師団等は滿洲へ夫を転用する。

又才十四軍（比島）を大本營直轄とする。

才三航空軍司令部を新設し、約五箇飛行団を基幹とする航空關係諸部隊を統率せしめ、印度及支那に対する進攻作戰並にスマトラ、ジャワ等の要地防衛に当らしめる。

### 二、支那方面

才三、才六師団を復員し、北方に戦軍才三師団を新設し南方より才三十三師団を転用する。

南方より一飛行師団司令部及所要の部隊を転用する。

### 三 滿洲方面

作戰計畫に基く指揮統帥機關即ち方面軍司令部、中間軍司令部等を新設し且才七十一師團及戦學才一、才二師團を新設する。又滿洲の防衛及作戰準備上可能なる範圍に於て兵力特に古年次兵等を復員する。

才二航空軍司令官の下に飛行師團二箇を隷屬せしめ、南方飛行部隊若干を転用する。

### 四 内地方面

才五十二師團を復員する。

(註) この計畫はその後の反政等とも関連し情勢変化の為大部の實現が困難となつた。即ち南方から抽出した兵力は才四師團

と軍直部隊若干のみとなり、内地の才五十二師団の復員も取  
止めとなつた。六

#### 兩方軍基本任務の更改

兩方地域の作戦に任じた諸部隊は開戦前の進攻に関する大體命に基  
き行動していたが、大本營は六月末進攻作戦の一段落の機会に於て  
その任務を更改し「兩方要域を安定確保すべき」持久任務を附与す  
ることを決定し、同月二十九日発令せられた。同日処置せられた主要な  
事項は、才一に比島の才十四軍を兩方軍から切り離して大本營直轄  
としたこと、才二に兩方軍總司令官及才十四軍司令官に新任務を附与  
したこと、才三に右諸軍の新任務達成の爲の行動の準拠を与へ、特に  
陸海軍現地部隊協力の準拠を指示したことの三項目であつた。

1795

才十四軍を大本営直轄としたのは比島が地理的に他の南方地域と隔絶し又特性を異にするので大本営が之を直轄することにより南方軍の負担を軽減すると共に、作戦及軍政に関する施策の徹底を図ることを目的とした。

南方軍總司令官の委任初めに關し命令せられた六月二十九日の大體命令第六百五十号の要旨は左の如くであつた。

命令 令 (要旨)

一、大本営は大東亞戦争完了の爲南方要域を安定確保して自給必勝の態勢を確立すると共に南勢に対応する作戦を準備す

二、南方軍總司令官は海軍と協同して左記に準拠して南方要域の安定確保に任ずると共に外邦要域に対する作戦を準備すべし

(一) 緬甸、旧英領馬來、スマトラ、爪哇、旧英領ボルネオに対して<sup>八</sup>

は之が防衛を完うすると共に遂に軍政の普遍滲透を図る

(二) 泰國及印度支那に対しては之が防衛に協力す

(三) 緬甸、印度支那、泰國方面よりする対重慶壓迫を続行す

(四) 印度及支那に対し所製に心じ航空進攻作戦を実施す但し奥地に

対する地上進攻作戦に關しては別命に依る

(五) 所製に心じ海軍々政主担任地域の防衛を援助す

(六) 印度、濠洲及支那等に対し所製の宣傳謀略を実施す

三、參謀總長は其隷下給糧部隊の中所製の部隊を一時南方軍總司令官

の指揮下又は区域下に入らしむることを得

四、細項に關しては參謀總長をして指示せしむ。



又同日才十四軍司令官に対し大軍命才六百五十一号を以て左の要旨の任務を与えられた。才十四軍司令官は海軍と協力し比律賓の安定確保に任ずへし之が為特に越に軍威の普渡を因るものとす。

同日参謀総長は南万軍司令官に左の要旨の指示を与へ軍令部総長は連合艦隊司令長官に西海軍中央協定を指示した

指 示 (要旨)

一 南方要域防衛の為南万軍司令官の準拠すべき西海軍中央協定別冊才一の如し

二 瀬田方面よりする対重慶壓迫航行の為当分の間依然一部を以て概ね龍陵、騰越附近怒江の線を保険するものとす

三 南万軍司令官は所管に心し英印支那軍事当局者との間

に日泰同盟条約又は日佛印共同防衛議定書に基く当該國との軍事上の協同に關し協定を行ふことを得

泰國駐屯兵力は情勢に變化なき限り最小限に止むるものとす

四 当分の間チモール島の直接防衛（防壁を除く）を担任するものとす

す

五 兩方要域に於ては我が任務遂成を容易ならしむる為所屬の武装團體等を育成することを得

六 航空基地の設定期別册才二「兩方要域に於ける航空基地設定期別」

（筆者註 省略）に準拠するものとす

七 外部要域に對する作戦準備に關しては差当り別册才三「外部要域に對する作戦準備設則」に準拠するものとす

七 外部要域に對する作戦準備に關しては差当り別册才三「外部要域に對する作戦準備設則」に準拠するものとす

八 軍隊の練成を強化し軍紀を厳作し戦力の維持培養に勉むるものとす（筆者註 以下略）

別冊才一（筆者註 防衛方針、防衛要領のみ抜萃）

#### 防衛方針

一 陸海軍協同し極力艦艇空兵力を以てする進攻作戦を実施し敵の反撃企図を激挫するに努む

二 速に占領地域の殘敵を掃蕩し又所屬に應じ附近要地を激定すると共に諸要地の防衛を強化し海軍緊密なる協同の下に敵の來襲に對し之を先制撃滅す

三 南方海峽及内堀南方要域間の海上交通を完全ならしむ

1800

防衛要領

一三

一 進攻作戦要領

1. 海軍は占領地域一帯の海面を制壓、索敵警戒に任ずると共に適時  
  濠洲並印度洋方面に対し航空進攻作戦及潜水艦戦を実施し又敵  
  首に慮し艦艇を以て洋上に追撃し敵艦船を捕捉撃破す
2. 陸軍は其の航空部隊を以て主として西南支那及東北印度方面に  
  於ける敵航空勢力其の他要地の破壊に任し又所要に慮し附近敵  
  艦船等の攻撃に協力す

二 防衛の分担

1. 占領地域の海上防衛は海軍兵の他の直接防衛はアングマン群島、  
  ニコバル群島、クリスマス島、小スンダ列島及旧蘭領ボルネオ

1801

以東の旧關領印度は主として海軍其の他は主として陸軍之に任ずるを原則とするも作戦の要求に應じ陸海軍協同之に任す

4. 速に陸海軍協同又は単独百領地域の殘敵を掃蕩すると共に附近要地に対し所要に應じて敵艦作戦を実施し諸要地の防備を強化し脅威を嚴にす

5. 敵潜水艦の侵入を阻止する為海軍は防備上必要とする海峡等を閉鎖又は制扼す但し陸軍担任地域に於ける右閉鎖の実施に万りては現地關係陸軍指揮官と協談するものとす

6. 南万嶽域に於ける主要港灣の海上防備は海軍之を担任す

7. 前二項の防備実施の為必要なる場合は海軍は現地關係陸軍指揮官と協談の上陸軍担任地域中の所要の地点に防備施設を設置

し且所要の人員を配備す

6. 敵の攻略企図に際しては海軍主担地域中アンダマン群島、ニ

コバル群島、小スンダ列島方面に対しては所要に應じ機を失せ

ず陸軍之を増援す

右の期間同方面の防衛（防空を除く）は主として陸軍之に任す

2. 防衛分担の大綱を以上の如く概定するも陸海軍協同之に任する

の精神を以て相互緊密に連絡し常に協同の綜合威力發揮に遺憾

なきを期す

### 三 海上交通保護

4. 海軍は南方海面一帯に於て威潜水艦の侵入を阻止すると共に之

が掃蕩を強化す

南方海面及内地南方要域間海上交通保護は海軍の担任とし陸軍  
之に協力す

陸軍關係船舶護衛等突如の禍災に關しては關係諸海軍指揮官間  
協定する所に依る

### 別冊才三（要旨）

外邦要地に対する作戦準備突如

#### 一 錫蘭作戦

##### 1. 作戦目的

錫蘭島を攻略して印度方面に於ける敵勢力を制壓するに在り  
必 使用兵力

陸軍 一乃至二師團

海軍 聯合艦隊の大部

### 3. 作戦時期の設想

獨乙の西亞作戦進捗に依り印度方面の敵が西方に牽制せられ  
たる時等とす

### 各作戦準備事項

#### (1) 教育練成

之が為才三十八、才四十八師團は夫々北部スマトラ及爪哇  
に集結し主として熱地に於ける上陸作戦を訓練せしむるも  
のとす

#### (2) 情報の収集



4) 作戦要領の研究

5) 作戦名称

十一号作戦と呼称す

三、其他印度濠洲及昆明等に対する作戦資料を収集す

此の際大本營が右の如く外部要地に対する準備要綱を示し、セイロン島の攻略を稍く具体化せしめた真意は、一に強伊勢力が西部印度洋に及ぶ場合を顧慮した結果で、この作戦実施の公算は必ずしも大なりとは思つていなかつた。六月二十九日の上奏の際、杉山參謀總長はこの問題に就き左の如く御説明を行つた。

外部要地に対する作戦準備中將來の情勢推移に依りましては比較的  
生起の公算ありと判断せられまする錫倫作戦に就ては稍く具体的準備

一八  
拠を示して其の作戦要領を研究せしめ其他に就ては作戦資料等の収  
集に勉むる如く指示致度と考へて居ります

又独伊勢力の東進に就て、当時大平官が如何に観察していたかは、七  
月七日F S作戦の延期に因し永野卓令部総長が上奏した際の御説明中  
左の一節により窺ひ知ることが出来よう。

六月中旬に於ける地中海々戦及ドブルグ陥落を契機と致しまして、  
独伊の北阿作戦は彼我共に予期せざる急速度を以て進展し間もなく  
東地中海に於ける英海軍の根拠地アレキサンドリヤを攻略し得る情  
勢となりました。之が為英國の地中海東部に於ける制海權及制空權  
は殆ど喪失し其の艦艇の大部も地中海より紅海或は印度洋方面に避  
退するの已むなき状況に至つて居ります。

此の情勢が将来の戦局に及ぼします影響は極めて大なるものがございまして、獨伊のマルタ攻略及西単の近東方面進出も可能となり、又獨側不敗の態勢確立の可能性も著しく増大することゝなります。従つて此の際我方が獨伊に東顧して西部印度洋方面に於ける敵増援部隊の遮断及敵艦船の撃滅を凶りますことが大局上極めて有利なる情況となりました。(甲略)

印度洋方面の敵艦艇撃滅及海上交通破壊戦が此の際実施すべき最も有利な作戦となりましたことを考へますと、当分F S作戦の実施を延期し、当面の作戦の重点を印度洋方面に指向する如く改めますことが大局上極めて有利と判断せられます。

### 三 南方占領地行政の滲透

杉山參謀總長は昭和十七年五月二十九日南方攻略作戰一段落後の占領地行政の實狀に關し、上奏を行つた。その内容左の如くである。

占領地域の治安の恢復並軍政の滲透度は概ね作戰の進捗度と併行致しまして各方面共順調に推移致して居ります。各地区毎に其の概要を申上ぐれば次の通で御座います。

#### (一) 馬來、スマトラ地区

治安の狀況は益々良好で御座います。

軍政の機構に就きましては軍政部の下に馬來は一〇名の知事及昭

南市長をしてスマトラは一〇名の支部長をして治めしめて居りま

す。尙此の支部長は近く州知事を以て代らしめらるゝ筈で御座います。

現地住民の軍政に対する協力状況を申し上げますると当初軍の対華  
橋施策が適當でありました為華僑の協力が最も積極的に御座いま  
して産業部門の建設に対しても相當な役割を演じて居ります原住  
民たる馬來人は頗る従順では御座いませが全くの無氣力で万事消  
極的で御座いませ又印度人は華僑に追隨して居る様を次で御座  
いませ

各種機關の復興状態に關しましては一般行政機關の整備に伴ひ道  
路、鉄道、通信機關、瓦斯、水道、電氣等も概ね復旧致しまして  
重要産業たるゴム、ボーキサイド、錫、マンガン、鉄、油等は所  
望量の取得には概ね支障のない有様で御座いませ

(二) ボルネオ地区

治安及防衛上顧慮すべき点は殆んど御座いません

軍司令部（ボルネオ守備軍昭和十七年四月編成）到着以来逐次軍政の滲透に努めて居りますが日尙淺く且交通極めて不便の上に殆んど平和的に進駐が行はれました關係上原住民中には今尙相当英蘭依存の風潮が強くなりますので今後は正に努力を要することゝ存じます

軍政機構に就きましては別に軍政部というものは設けて御座いませんが軍司令官の下に五名の知事が居りまして地方行政に當つて居ります

(三) 爪哇地区

爪哇島の治安は迅速に恢復致しまして諸施策総て順調に進んで居

二三

りませ

占領直後の暫定的措置として目下各師団にも軍政の実施を担任せしめて居りますが近く軍政部要員の増強に伴ひ之は切上げる予定で御座います

軍政機構に就きましては将来軍政部の下に各州に知事等を設けて行政に当らしめますることは他と同様で御座います。が下級官吏には勉めて多くの原住民を利用する様心掛けて居ります

原住民であります。インドネシヤ人は多年和蘭の無力化的政策の爲直ぐには役に立ちませんが漸次教化して行きたいと考へて居ります

#### 四) 緬甸地区

緬甸は漸く作戦が一段落して各兵団は残敵掃蕩中でありまするが治安は一般に良好で御座います特に緬甸人一般の対日感情は極めて親日的でありまして日本軍の進む所箠食壺漿して之を迎ふると云つた状況でありまするので治安は急速に平靜化するものと期待致しております

緬甸の軍政は今漸く其の緒に就きつゝある程度でありまして行政機構等も目下検討し準備中で御座います但し緬甸の国内状況は相当複雑でありまして各民族間特に緬甸人、印度人間対立の関係もありまするし今後の民族指導には相当な注意を必要と感ぜられます

十



(五) 比律賓地区

二五

比律賓に於きましては未だ呂宋島の中南部以外の治安の確立を見て居りませんが当分相当の兵力を保有致しますので治安の急速なる恢復を期待してゐる次第で御座います

軍政に就きましては軍司令官の指揮下に中央、地方共に在来の統治機構を最大限に利用して著々成果を挙げて居ります産業及文化施設は南部諸島及北部呂宋以外は漸次復旧して居りまして特にマニラ周辺地区は大体戦前の機能を發揮して居ります

以上種々申上げましたが全般と致しましては軍政の施行は克く作戦に膚接し予定の如く順調に進捗致して居りまして治安の確立、重要国防資源の取得は固より軍の現地自活も概ね可能であると存じて居

1814

ります

南方文化學術関係諸機関の保存に關しましては現地軍に於きましても大いに努力して居りますが取敢へず保存業務の為バタビヤ及昭南の博物館、バンドンの地質調査所、クアラランポアの博物館と農業試験場、比律賓の科学院等には内地より所要の専門学者を派遣する如く目下準備中で御座います

六月南方軍の防衛態勢確立に伴い、大本營は特に軍政の滲透を重視した。之が為各軍の軍政要員を増加すると共に南方軍に軍政総監部を新設し、将来の經濟建設、民族指導、交通通信施設の運営等廣汎なる分野に亘り、各軍の軍政施行を統轄指導せしめることとした。軍政総監は南方軍総參謀長の兼任であつた。

### 三、陸軍の重慶進攻作戦構想

二七

昭和十七年春以降大本營陸軍作戦部の一角に於ては、対重慶作戦計畫の考案に没頭していた。それは南方初期攻略作戦が概ね計畫通りの攻略を完遂し得るものとの見透しがついたので、この際四川省の要域を攻略して重慶政権を屈服せしめ、こゝに政戦略上日滿支の磐石の基礎の上に立つて、大持久戦に対処せんとする考へであつた。

四月上旬大本營は今後機会を求めて重慶方面に対する大進攻作戦を行ひ企図あることを、支那派遣軍總司令官畑大將に内示して、本作戦を研究すべきことを要望した。この際大本營に於て内示した作戦要領の骨子は左の如くであつた。

昭和十八年春頃より約一〇箇師団を基幹とする一方面軍を以て南部

1816

山西方面より、又約六箇師団を基幹とする一軍を以て宜昌方面より攻勢を開始する。各軍は当面の敵を撃破して、方面軍は西安平地を確保すると共に、廣元附近に進出し、又宜昌方面より進攻する軍は萬県南北の線附近に進出して各爾後の作戦を準備する。作戦準備の推移に伴い更に攻勢を發起し、重慶成都を攻略すると共に四川省の要地を占領し、更に状況之を要すれば一部兵力を以て敵の抗戦基地を掃蕩する。

攻勢開始より四川要域占領迄の間を概ね五箇月と予想する。

右の作戦間現占拠地域を確保安定し、所要の方面に於て敵を牽制抑留して進攻作戦を容易ならしめる。

この作戦を五号作戦と呼稱する。

この作戰実施の爲の兵力は、支那派遣軍の兵力を主体とし一部の兵力特に渡河兵力及渡河資材並に後方部隊の主力等の軍直轄部隊を内地、滿洲及南方から転用増強することとした。之等増加兵力に関しては、具体的検討を進めた結果、八月末迄に概ね実現の目途を得たので、九月三日參謀總長は大陸指を以て五号作戰準備要綱を指達した。この頃南東ガタルカナル方面の戦況逐次激化するが如き徴候があつたので、この準備要綱に於ては本格的作戰準備実施の時期を保留し、取敢えず一部の準備を進めることとした。即ち五号作戰準備は昭和十七年九月から一部の準備に着手し、同年秋季頃の情勢を見て作戰を実施するや否やを決定すること、作戰を実施することに決定の場合に於ては更に本格的準備を完成した後、昭和十八年春頃以降に作戰発動を予期する

ことを示したに過ぎなかつた。

三〇

1819